

地理A, 地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており、この目的自体は、従前の大学入学センター試験（以下「センター試験」という。）と基本的に同様である。

一方、共通テストでは、平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっている。地理の問題作成方針にも、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けて問題を作成すると示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 地図的技能と活用、日本の自然災害に関して、地図や資料等から地理的諸事象に関する情報を読み取り、地図やGISと自然災害や防災に関する知識を基に、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 東京と2都市を結ぶ直行便の所要時間等について、時差に関する知識や技能を基に、3都市の位置関係に着目して時差について考察する問題。

問2 主題図の作成に関する知識や技能を基に、先生と生徒の会話に沿って適切な階級区分図を作成するための表現方法について考察する問題。

問3 基盤地図情報により作成した等高線と標高により色分けした地図を読み取り、等高線から地形を読み取る技能を基に、各地点から見える領域と見えない領域について考察する良問。

問4 ハザードマップの災害別の公開状況を示した地図を読み取り、各災害の特徴や地図中の地域の地形的特徴に関する知識を基に、自然災害発生の傾向性について考察する問題。

問5 自然災害に対する備えを撮影した写真を読み取り、自然災害の特徴に関する知識を基に、防災対策の意義や効果について考察する問題。

問6 三つの避難経路を示した地理院地図からそれぞれの避難経路に関する情報を読み取り、各経路の特長と問題点について考察する問題。

第2問 世界の生活・文化に関して、多様な地図や資料を読み取り、各地域の自然環境やそれに適応した人々の暮らしに関する知識を基に、各地域に見られる生活・文化の特色を地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されている。

- 問1 3地域の伝統的な住居の平面図を読み取り、住居の形状や家具の配置などの特徴に関する知識を基に、各地域の気候や生活・文化について考察する問題。
- 問2 2か国の国歌の歌詞から情報を読み取り、自然環境や歴史、文化、政治体制などに関する知識を基に、各国の生活・文化の特徴について考察する問題。
- 問3 4か国で伝統的に見られるはきものに関する写真を読み取り、自然環境や人々の暮らしに関わる動植物に関する知識を基に、各地域の生活・文化について考察する問題。
- 問4 食に関する統計及び料理の写真を読み取り、自然環境や農牧業に関する知識を基に、各国の食文化について考察する問題。
- 問5 各国の家計の消費支出の割合に関する資料を読み取り、生活水準や社会保障制度に関する知識を基に、各国における家計の消費支出の特徴について考察する問題。
- 問6 世界自然・文化遺産及び危機遺産を示した地図を読み取り、自然環境や歴史・文化に関する知識を基に、世界遺産の分布の傾向性や、危機遺産の分布とその要因について考察する良問。
- 第3問 熱帯域における生活・文化に関して、地図やグラフなど多様な資料から自然環境や食物、農業に関する情報を読み取り、熱帯域の気候や産業に関する知識を基に、持続可能な開発について考察する大問である。
- 問1 バナナに関する二つの地図を読み取り、生産国と輸出国に関する知識を基に、バナナを生産国と輸出国の特徴やその背景について考察する問題。
- 問2 複数の資料を読み取り、熱帯域の気候や植生に関する知識を基に、雨温図に示された地域の場所と植生景観について考察する問題。
- 問3 熱帯の食べ物に関する写真と資料を読み取り、中央アメリカと東南アジアの農業生産に関する知識を基に、各地域における食文化について考察する問題。
- 問4 米とトウモロコシの生産量の経年変化を示したグラフを比較しながら読み取り、会話文で示された比較の視点に着目し、人口や産業の変化に関する知識を基に、各地域における食料増産の背景について考察する良問。
- 問5 穀物自給率を示した地図を読み取り、各国における産業の特色や食料供給などに関する知識を基に、熱帯域の国々における食料問題について考察する問題。
- 問6 熱帯域における農業問題や食料問題に関する知識を基に、持続可能な開発の視点に着目して解決策を考察する問題。
- 第4問 地球的課題のうち、資源問題、環境問題、人口問題に関して、多様なグラフや資料を読み取り、資源・産業等に関する知識を基に、各課題について考察する問題により構成されている。
- 問1 石油に関するグラフを読み取り、再生可能エネルギーの利用や石油の流通に関する知識を基に、石油の確認埋蔵量と可採年数が増加する背景について考察する問題。
- 問2 5か国のGDP当たりの1次エネルギー消費量を示したグラフを読み取り、各国の産業や生活の特色に関する知識を基に、各国のエネルギー消費とその背景について考察する問題。
- 問3 森林面積に関する資料を読み取り、各地域の自然環境の保全や資源管理に関する知識を基に、森林資源の変化に関する地域的差異について考察する問題。
- 問4 世界で水不足が発生している地域を示した地図を読み取り、乾燥地域の広がりや経済格差に関する知識を基に、持続的な発展に着目し、水不足を克服する方策について考察する良問。
- 問5 人口増加率の推移に関するグラフを読み取り、各地域の人口政策や経済的背景に関する

知識を基に、人口変化の地域的傾向性について考察する問題。

問6 経済的な発展と国民の健康に関して、平均寿命と一人当たりGDPの相関を示したグラフを読み取り、各国における生活習慣や貧困問題等に関する知識を基に、経済水準と平均寿命との関係を考察する良問。

第5問 長野県飯田市の地域調査に関して、衛星画像や空中写真、メッシュマップなど多様な資料を読み取り、気候や地形、産業などに関する知識を基に、飯田市の課題を解決するための方策を多面的・多角的に考察、構想する大問である。「地理B」との共通問題である。

問1 衛星画像、河川縦断曲線、雨温図を読み取り、天竜川に注目して飯田市の自然環境の特徴を考察する問題。

問2 地表面の傾斜や人口の粗密を示したメッシュマップや、小学校区と児童数を示した図形表現図を読み取り、地形や人口分布と関連させて小学校の立地について考察する問題。

問3 空中写真に陰影起伏図を重ね合わせた地理院地図を読み取り、地形の学習で身に付けた河岸段丘に関する知識を基に、飯田市中心部の地形と土地利用について考察する問題。

問4 飯田駅南東側の街路図と写真を読み取り、市街地における大規模火災の被害軽減策について想像力を働かせながら考察する良問。

問5 東京と名古屋の中央卸売市場におけるリングとキュウリの都道府県別入荷量の月ごとの変化を示した資料を読み取り、農業や流通に関する知識を基に、長野県との地理的近接性や自然環境の特徴に着目して市場と作物について考察する問題。

問6 二つの資料を読み取り、森林資源量の増加の要因を考察し、持続可能な林業について構想する良問。

3 分量・程度

第1問 大問全体としては標準的な難易度の設問で構成されている。全体的に、資料から情報を読み取り、知識を基に考察したり、因果関係を論理的に考察したりする問題が続き、出題に工夫が感じられる。問2は作業的・体験的な学習を、問題を解きながら追体験する良問である。問3は複雑で難易度は高いが、等高線から地形の起伏を見出す良問である。分量や文字数は適切である。

第2問 大問全体としては標準的な難易度の設問で構成されている。問1～問4は、多様な資料を読み取り、知識を基に地域の生活・文化について考察する問題だが、最終的に国について問われており、やや似た問題という印象を受ける。問6は、各国・地域の自然環境や生活・文化、置かれている諸課題に関する知識を基に、総合的に考察する良問。分量や文字数は適切である。

第3問 大問全体としては、標準的な難易度の設問で構成されている。問2は、地図・グラフ・写真といった複数の資料を読み取ることが求められるが、難易度は適切である。全体としては設問数や分量、文字数ともに、試験時間に照らして適切なものであった。

第4問 地図や図表の読み取りと既存の知識とを関連付けて考察することが求められ、全体としてやや難易度が高い出題である。問4は、問題文の文字数が多く、受験者の負担が大きい。大問全体の分量については適切である。

第5問 大問全体としては、標準的な難易度の問題である。問4は災害の学習において、大規模火災が扱われることが少ないと思われるが、資料を丁寧に読み取れば十分解答できる。問6について、高等学校の授業では林業はあまり扱われないが、地域の持続可能性を構想する良問である。分量については、本問は場面設定の問題であることをふまれば適切である。

4 表現・形式

第1問 多様な資料を読み取り、知識を基に地理的事象について考察する問題や、会話文に含まれる条件を基に考察する問題等、全体的にバランス良く多様な形態で出題されている。問3ではGISによる景観のシミュレーション画像が示されたり、問5では実際の防災対策に関する景観写真が示されたりするなど、全体的に資料の提示や問い方に工夫が見られる。問6の地理院地図は印刷が薄く、やや地形の情報などが読み取りづらい。

第2問 生活文化について、様々な資料を用いてバランスよく出題されている。問1の図1は初見の受験者もいたと思われるが、住居の材質や部屋割り及び家具の配置から地域の特徴が見いだせるように工夫されている。問6は問題文が長くならないよう*で示したり、図の示し方もテーマが伝わりやすいように工夫されており、完成度が高い良問である。

第3問 高校生が熱帯域における生活・文化についてグループ学習で探究するという場面設定となっており、問題作成方針に沿っている。全体的にグラフや地図は読み取りやすく適切である。問1・4・5は高校生の会話文で資料を読み取る視点を示唆しており、このことは実際の授業において考察・構想する過程を示すものとして適切である。ただし、問2の写真1は植生の特徴を読み取ることが難しく、拡大するなど工夫が求められる。

第4問 問題全体を通じて使用されている地図や図表は題意を読み取りやすく適切である。問2・6では初見の資料が用いられているが、問題中に読み取りの視点が示されており、資料を活用する技能や、高等学校で学習した知識を基に、思考力・判断力・表現力等を発揮して解答する問題として好例である。

第5問 生徒が地域の自然環境や産業、防災について調査する場面の設定となっており、その追究の過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に沿ったものであり、適切である。図4はGISを活用したデータを地図化した好例ではあるが、図が小さいことが悔やまれる。また、図6の④は長野県の入荷量が著しく少ないため、「出荷量1位の県」であるように見え、誤読した受験者がいたと思われる。

5 まとめ（総括的な評価）

全体として、知識の質や思考力・判断力・表現力等、さらにそれらに基づいて将来を構想する問題で構成されており、問題作成方針に則った出題であった。また、「場面設定」の問題では、高等学校の授業をイメージした展開になっており、高等学校の授業等でも大いに参考になる好事例であると言えるだろう。また、資料の読み取りに際して、読み取りの着眼点や注意点が示されている設問があった。このような設問こそ地理Aの問題としてふさわしい良問であり、同時に高等学校の授業改善のメッセージも含まれていると感じている。作図の過程について会話文を通して理解を促すような設問もあった。GISの普及によって地図作成のハードルが下がっていることは喜ばしいことだが、同時に作図の経験や地図のリテラシーを高めるような授業が必要とされていることを示唆しているのではないだろうか。

地理Bに比べて受験者が少なく、しかもその受験者の学力は多様であることから、難易度の調整は非常に難しいことが予想されるが、問題作成の方針に基づいて作成されているかという問題の質の面から考えると、難易度は適切であったと言える。地図をはじめ、各種資料を用いて考察していく地理ならではの出題の特徴を生かしつつ、引き続き次の2点についてお願いしたい。

一つ目は、地理Aでは作業的、体験的な学習を重視していることから、これまで以上に地理学習の楽しさや有用性を感じることができるよう問題となるようにお願いしたい。特に、令和4年度

実施の新学習指導要領では、すべての教科・科目において探究の重要性が指摘されている。地理での学びや探究の方法は、自然環境と人間生活を関連させて追究することに特徴があり、様々な場面で活用することができるものと考えられる。同時にこのような出題のあり方は、高校の授業改善にも資するものである。二つ目は、普通科と比べて授業時数の限られる実業系高校の受験者もいることから、共通テストを通じて地理の学びが深まるような設問、たとえば思考の過程をブラックボックスにするのではなく、資料をどう読み取るかなどの視点から受験生をリードする問題についても、引き続き検討いただきたい。本務の傍ら、質の高い問題作成に関わる先生方に敬意を表しつつ、結びに代えたい。

地 理 B

1 前 文

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）は、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており、この目的自体は、従前の大学入学センター試験（以下「センター試験」という。）と基本的に同様である。

一方、共通テストでは、平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっている。地理の問題作成方針にも、思考の過程に重きを置きながら、地域を多様なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けて問題を作成すると示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 世界の自然環境と災害に関して、資料や地図から地理的諸事象に関する情報を読み取り、地形や気候、自然災害に関する知識を基に、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 インド半島とアメリカ大陸の東端と西端における月降水量を読み取り、降水のメカニズムや海流に関する知識を基に、各地域の降水量の季節変化について考察する良問である。

問2 植生の景観写真を読み取り、土壌と植生に関する知識を基に、気候の影響を受ける成帯土壌と植生の関係について考察する問題。

問3 世界の湖の最大水深と塩分濃度を読み取り、地形や気候帯の分布などに関する知識を基に、湖の形成された要因について考察する良問である。アフリカ大地溝帯、乾燥地域、最寒冷期の氷河分布など、異なる単元で学習した内容の総合的な理解を問うている。

問4 関東地方の寒冷期と温暖期の海岸線を示した地図を読み取り、長期的な気候変動と海面の高さに関する理解を基に、気温と海水準変動の関連や沖積平野の成因について考察する良問である。

問5 突堤建設前後の海岸線の変化に関する図や空中写真を読み取り、沿岸流による海岸侵食等に関する知識を基に、海岸線の変化とその背景について考察する良問である。

問6 インドネシアの津波被災地の地図を読み取り、津波のメカニズムに関する理解を基に、被災の特徴を考察する問題である。

第2問 資源と産業について「製造業のグローバル化」の観点から、地理の授業で探究する場面が設定された大問。製造業に焦点化し、新聞記事や図表など多様な資料の読み取り、工業に関する知識を基に、工業立地や産業構造の変化、貿易などについて多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 自動車製造業に係る新聞記事やグラフを読み取り、主要自動車生産国における生産台数の変化と、年代によって異なる自動車メーカーの海外進出の要因を考察する良問。

問2 3種類の工業製品について主要輸出国の主題図を読み取り, 工業製品の特徴に関する知識を基に, 各工業の立地について考察する問題。

問3 日本企業の海外現地法人における製造業と非製造業の割合の経年変化に関する資料を読み取り, 各国の経済状況や, 産業構造の変化に関する知識を基に, 日本企業の海外進出の特徴について考察する問題。

問4 3か国の産業別人口割合に関する三角グラフを読み取り, 各国の経済発展の段階に応じた概念的な理解を基に, 経済状況と産業構造の関係の変化を考察する良問。

問5 国別の知的財産使用料の収支を示した散布図を読み取り, 水平貿易や垂直貿易に関する知識を基に, 世界全体の知的財産権取引に関する貿易の特徴を考察する問題。

問6 探究の「まとめ」を想定した問題。製造業のグローバル化について学んだ知識を基に, 先進工業国と新興工業国の具体的な取組みについて考察する良問。

第3問 人口と都市に関して, GISを活用した地図や統計資料などを読み取り, 時間軸や空間軸に着目して, 人口や都市に関する地理的諸事象について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 人口密度と人口増加率の変化を示した表を読み取り, 人口転換に関する知識を基に, 各国の人口転換の段階を考察する問題。カタールやアルジェリアのように必ず学習するとはいえない国や地域を出題する際は, 国の位置を示した地図を載せるなどの工夫を検討してほしい。

問2 二つの人口に関する図を読み取り, 人口転換に関する理解を基に, 各国の死亡率の変化や年齢別人口構成の特徴について考察する問題。

問3 先進国と途上国の都市人口と農村人口の推移を示した図を読み取り, 両地域の都市化や人口移動に関する理解を基に, 世界的な都市化について考察する問題。

問4 世界都市の位置と2時点の変化を示した図を読み取り, 世界の都市機能に関する知識を基に, 世界の経済活動の拠点となる地域が多極化したことを考察する良問。

問5 大都市圏の世帯数に関する統計地図を読み取り, 大都市圏の居住形態に関する知識を基に, ライフステージに合わせた居住地の分布の傾向性を考察する良問。

問6 大都市郊外のニュータウンにおける時期別の人口ピラミッドを読み取り, ニュータウンの生活様式の変遷について考察する問題。

第4問 ヨーロッパの地誌に関する問題。多様な主題図を読み取り, ヨーロッパに関する幅広い知識を基に, 多面的・多角的にヨーロッパの地理的事象について考察する問題で構成されている。

問1 ヨーロッパの4地点の雨温図を読み取り, 各地点の気候因子に関する理解を基に, ヨーロッパの気候について考察する問題。温帯に属する各都市の年降水量や気温の変化の特徴を, 緯度や隔海度など多様な気候因子から考察することが求められた。

問2 典型的な侵食地形の景観写真とその説明を読み取り, 地形に関する基本的知識に加え, 地形と人間生活に関する理解を基に, 侵食地形の成因について考察する問題。

問3 三つの階級区分図を読み取り, ヨーロッパにおける移民の動向や拡大EUの地域格差などに関する理解を基に, 人口分布の傾向性について考察する良問。

問4 主要空港の旅客・貨物の取扱量などを示した主題図を読み取り, 各都市の特徴や他地域との結びつきに関する知識を基に, ヨーロッパの航空交通の特徴や傾向性について考察する問題。図を細かく分析する力が求められた。

問5 言語分布に関する地図を読み取り, 歴史的な背景知識を基に, ヨーロッパにおける少数民族等の言語分布について考察する問題。

問6 ドイツの旧炭鉱地域における土地利用に関する主題図を読み取り, 土地利用の経年変化

やその背景について考察する問題。

第5問 長野県飯田市の高等学校に通学する生徒が地域調査を実施する場面設定の大問。「地理A」との共通問題。自然環境、産業、防災及び地域課題の解決に関する資料を読み取り、日本の地方都市に共通する地理的事象に関する知識を基に、生活圏の地域的特色について多面的・多角的に考察し、地域の展望を構想する問題で構成されている。

問1 河川流域の衛星画像や気候に関するグラフ、河川縦断曲線を読み取り、河川に関する基本的知識を基に、地域景観や河川流量の季節変化等について考察する問題。

問2 地形と人口分布等に関する市町村規模の主題図を読み取り、飯田市内の人口分布や小学校の立地等に関わる規則性・傾向性について考察する問題。

問3 地理院地図の機能を活用して地図を読み取り、河岸段丘に関する理解を基に、地形と人間生活との関わりについて考察する問題。

問4 現地調査によって得られる小地域の防災・減災に関する資料を読み取り、防災・減災に関する一般的な知識を基に、市街地における大規模火災の被害軽減策について考察する問題。

問5 農業に関する統計資料を読み取り、野菜や果物の産地と大消費地との位置関係を基に、農産物の生産、流通及び消費について考察する良問である。

問6 日本の森林資源に関する課題と持続的な活用に関する資料を読み取り、日本の地理的な諸課題に関する知識を基に、課題の要因と地域資源の適切な利用について構想する問題。

3 分量・程度

第1問 自然環境に関する諸事象について思考力等を働かせながら解答する標準的な難易度の大問となっている。資料や文章量ともに適切である。問4は長期的な気候変動と海面の高さの変化を題材とする問題で、過去の寒冷期とU字谷を結び付けて解答した受験者もいたと考えられる。

第2問 製造業を中心とする諸事象について思考力等を働かせながら解答する標準的な難易度の大問であった。問1は新聞記事などの資料を丁寧に読み取ることが求められた。問1と問6は資料を読み取ったり、まとめたりする探究の過程に関する問題のため、やや時間がかかる。

第3問 人口と都市に関する全体に標準的な難易度の設問で構成され、資料や文章量はともに適切である。問1のカタールのような国の人口統計や、問3の都市人口と農村人口の推移については、やや難しい知識や理解の内容である。問5は東海3県の人口統計がメッシュマップで表現され、ライフステージと居住の関係を考察するのに、やや時間がかかる問題である。

第4問 ヨーロッパを中心とした出題で、問3のように地理的諸事象の特徴を階級区分図で表現した資料を読み取る問題や、問6は旧東ドイツの炭鉱の変容の資料を読み取る問題など、標準的な難易度の設問で構成されている。問4は初見の資料を読み取る問題で、根拠となる知識を想起するまでにやや時間がかかり、難易度は高いと思われる。設問数、文字数ともに適切である。

第5問 資料が多彩に提示された地域調査の問題で、標準的な難易度で構成され、分量も適切である。問4は写真や地図から火災の被害軽減策を考察する問題で類焼と避難の違いの判断に迷った受験者もあったと考えられる。問5は、資料中の長野県の割合と、競合都道府県数と割合から判断するため、解答にたどり着くまでに時間を要すると考えられる。

4 表現・形式

第1問 世界の自然環境や災害に関する多様な地図や写真が付され、自然環境の多様性や生活との関わりについて適切に考察する構成である。特に中間Bではやや情報量の多い図が用いられているが、説明文の空欄補充や文章選択の形式により、思考過程を意識できるよう工夫されて

いる。問5のように東西を考えさせる問題ではできる限り地図の上方を北で表現していただきたい。

第2問 製造業のグローバル化について探究する場面設定のもと、工業を中心とする産業の諸課題について多面的・多角的に考察する構成となっている。新聞記事を基にした資料1は文字数が多くなるものの、実際の探究場面に即した思考ができる適切な扱われ方であった。資料2は探究の過程を授業場面での発表ポスターの体裁にまとめたもので、学習過程を見取ることのできる教材として、高等学校での授業づくりの参考となるものである。

第3問 多様な表現方法による地図やグラフが示され、人口と都市に関する地理的事象について多面的な考察ができるよう工夫されている。問4のように問題文、図ともにやや情報量が多いものもみられるが、解答に迷いが生じないよう適切な工夫が施されている。

第4問 多様な図表などの資料を用いて、ヨーロッパを多面的に捉えることが出来る構成となっている。全体的にヨーロッパに関して深い理解を基に考察する問題が多いが、問6はやや読み取りの技能に寄った形式となっている。また問4についてはやや情報量が多く、円グラフの重なりなど読み取りに時間を要し、受験者の立場に立った改善が求められる。

第5問 長野県飯田市において地元の高校生が地域調査を行う場面設定は、実際の授業に即した適切な扱われ方である。図表においてもGISを用いた統計地図の活用や、地理院地図を活用した現地調査資料など、高等学校の授業で実践したい内容であり適切である。特に資料1は調査結果の取りまとめ方法として参考となる。また資料2は生徒が構想した良案を並列した上で、前提条件に応じてより適切なものを選択する形式となっている点が、探究のまとめとして最適な扱われ方であった。

5 ま と め (総括的な評価)

問題作成の基本的な考え方および地理の問題作成方針に沿い、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を測定するための良問が多い。特に、第1問の問1の気候変動と海岸線の変化、第2問の問1の製造業のグローバル化及び第5問の問5などは、それぞれ自然地理や工業地理、農業地理といった高等学校での学びを意識した問題であった。これらは、地理的な諸事象に対して、知識を基に推論したり、資料を基に検証する問題によって、知識の理解の質や思考力、判断力、表現力等を測ることができる試験であった。また、第2問と第5問では学習の過程を意識した場面設定が行われ、地球的規模の課題や生活圏の課題といった多様なスケールから地理的事象に迫り、解決方法を探究する過程を示したり、第3問の問4の世界都市の持つ機能や第4問の問5のヨーロッパの言語分布に関する問題で正解に至るための基本的な知識の重要性を示したりするなど、高等学校での授業改善の指針となる問題であった。

使用されたGISを活用した地図やグラフなどの諸資料は受験者にとって初見のものが多く、その読み取りを通して身に付けた知識を活用し、考察を行って解答する問題が大半となっている。これらの資料は、現地調査を想定した場面設定で地域の実態を把握する問題、概念的理解を基にして解答する問題などで用いられており、多彩な工夫が凝らされている。特に現実社会の課題解決に結びつく構想をまとめる学習などでの資料の活用は、授業づくりの参考になるものであった。

全体的には適正な難易度であったものの、多量の文章や図表の読み取りとその活用を受験者は求められ、これらを着実に読み取り、多面的・多角的に考察する必要がある。そのため、高等学校における学習の成果を正確に測定するためにも、高等学校の学びに即した地理的事象や対象地域の設定と、文章表現や図表の提示方法については、引き続き改善に向けた検討をお願いしたい。